2025年度　　一 般 選 抜 問 題
前期Ａ日程　2025年１月25日(土)

選　択　科　目

（数学・基礎理科・物理・化学・生物・日本史・世界史・国語）

数　　学 …… １～ ６ページ
基礎理科 …… ７～ 28ページ
※２科目選択して１科目の扱いとなります。
物　　理 …… 29～ 41ページ
化　　学 …… 43～ 56ページ
生　　物 …… 57～ 71ページ
日 本 史 …… 73～ 83ページ
世 界 史 …… 85～ 99ページ
国　　語 ……101～115ページ

注　意　事　項

１．試験開始の合図があるまで，この問題冊子の中を見てはいけません。

２．３科目型の受験生および３科目型と２科目型を併願する受験生は上記の科目から２科目を，２科目型の受験生は，上記科目と英語から２科目を選択してください。但し受験票に記載された科目以外を受験すると０点となります。

３．解答用紙には，「**数学**」（青色）と「**基礎理科**」（赤色）と「**数学・基礎理科以外**」（赤色）の３種類があります。

４．試験開始後，解答用紙に受験番号と名前を必ず記入し，受験番号をマークしてください。数学以外の科目については，解答する科目を選び，科目の右にマークしてください。また解答科目欄に科目名を記入してください。正しくマークされていない場合は０点となります。

５．解答はすべて解答用紙の解答欄にマークしてください。「**基礎理科**」の解答用紙は２科目を選択し，科目ごとに決められた解答欄にマークしてください。３科目に解答した場合は０点となります。

６．問題用紙の余白は計算に使用してもかまいませんが，解答用紙を汚してはいけません。

７．試験開始後，問題用紙・解答用紙に落丁・損傷がないか確認してください。

８．数学の問題の冒頭には「**解答上の注意**」が記入されていますので，必ず読んでから解答してください。

９．試験終了後，問題用紙は持ち帰ってください。

国語

1

次の問い（問1～4）に答えなさい。

問1　ア～エの傍線部のカタカナに相当する漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つ選びなさい。[1]、[2]、[3]、[4]

ア　待ちかねた観客がイッセイに入場口へ押しかけた。[1]

① 好きなメーカーの新セイヒンの発売を心待ちにする。
② 校歌セイショウの時間に起立する。
③ 政治家がシセイに人々の声に耳をかたむける。
④ セイメイ判断の占いをする。

イ　会社員を辞めてセンギョウ農家になる。[2]

① 門前町の歴史と文化のヘンセンをたどる。
② 斬新なアイデアはセンプウを巻き起こした。
③ 彼は罪状について厳しいセンギを受けた。
④ 大学では歴史学をセンコウするつもりだ。

ウ　人気劇作家が演劇評論雑誌をシュサイする。[3]

① 一国のサイショウとして危機に立ち向かう。
② 新しい機能が十全にトウサイされた商品。
③ 不良サイケンの処理に公的資金を注入する。
④ 店舗の運営を店長のサイリョウに任せる。

エ　国内クッシの選手が集まるチーム。[4]

① 各界の有識者を集めてシモン会議を開く。
② 国内で有名な武道家を招いてシナンを仰ぐ。
③ 競技会で優勝したチームにシハイが授与される。
④ 法律は公布後、一定期間をおいてシコウされる。

問2 ア・イの四字熟語の空欄 5 、 6 に入る漢字を、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つ選びなさい。 5 、 6

ア 紆(う) 5 曲折

① 世　② 余　③ 予　④ 与

イ 風光 6 媚(び)

① 鳴　② 名　③ 銘　④ 明

問3 ア～ウの慣用表現の空欄 7 ～ 9 に入る漢字を、後の①～⑨の中からそれぞれ一つ選びなさい。 7 、 8 、 9

ア 7 口を逃れる

イ 風雲 8 を告げる

ウ 常 9 を逸する

① 孤　② 奇　③ 枯　④ 期　⑤ 戸

⑥ 軌　⑦ 虎　⑧ 時　⑨ 急

問4 ア～ウに該当するものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つ選びなさい。 10 、 11 、 12

ア 中島敦(なかじまあつし)の著作 10

① 『忘れえぬ人々』　② 『山月記』　③ 『奉教人の死』　④ 『古寺巡礼』

イ 三浦哲郎(みうらてつお)の著作 11

① 『ユタとふしぎな仲間たち』　② 『兵隊宿』　③ 『雁(がん)の寺』　④ 『あすなろ物語』

ウ 『風立ちぬ』を執筆し、私小説からの脱却を志向した作家 12

① 堀辰雄(ほりたつお)　② 上田敏(うえだびん)　③ 横光利一(よこみつりいち)　④ 吉井勇(よしいいさむ)

2

次の文章を読んで、後の問い（問1～6）に答えなさい。

西洋絵画におけるモダニズムは、作品の価値判断の基準を「主題」から「手法」へと移行することで確立されている。絵画の価値を、「なにが描かれているか」という「主題」の重要性ではなく、「いかに描かれているか」という「手法」の独自性で判断するという今日では自明となった慣習は、モダニズム絵画に特有のものである。

モダニズムの確立以前のヨーロッパ絵画においては、作品の価値はアカデミーの定めた「主題」の序列に従って判断されており、聖書や神話を題材に描いた「歴史画」と呼ばれる画種を最上位に置き、以下、人物画、動物画、風景画、静物画の順に作品の価値が下がり、同時代の風俗を描く風俗画は最下位に置かれていた。したがって、A今日では名画の代名詞となった印象派の絵画の大半は、モダニズム以前の序列においては最下位の画種に属することになる。

マネが近代絵画の開祖とされるのは、彼の作品が当時のアカデミーの定めた「主題」のヒエラルキーを転覆してみせたからに他ならない。当時のヒエラルキーでは最下位に置かれていた風俗画を、当時は最上位に置かれていた歴史画風に描いてみせたのがマネであり、パリ郊外の森に当世風の裸女を配した『草上の昼食』が当時のフランス唯一の官展のサロン展に落選したのはそのためである。この作品は、同年のサロン落選が多数に上ったことから皇帝ナポレオン三世のはからいで開催された「落選者展」に展示されるや轟々の非難を招くことになる。

画面の中から鑑賞者を不敵に見返す女性のヌードは、ルネサンス名画の神話の女神の趣向を借りているものの、脱ぎ捨てられた流行のドレスや同伴男性のスーツによって、同時代の生身の女性の裸体であることを誇示していたからである。画面は、アカデミーの序列では最下位に置かれていた風俗画という卑俗な絵画主題を、あえて最上位の歴史画の様式で描くという趣向を介してアカデミーの権威そのものを転覆してみせているのである。マネのこの作品が、画壇に限らず保守的な人々の憤激を買ったのは、そのB挑発的な反権威性ゆえのことであった。

当時、絵画が女性の裸体を描くには、ヴィーナスのような神話の女神や聖書のイヴのような、いわば「公的」なイメージとして流布した女性像を借りるのが通例であったのに対して、マネはあからさまに「私的」なイメージを帯びた女性の衣服を剥いだ姿を生々しく描いてみせたのである。現代の写真に喩えるならば、前者はプロの写真家がモデルを撮影した審美的なヌード写真のようなものであったのに対して、後者は個人が恋人を撮ったスナップ・ショット的なヌード写真のようなものであり、公開されるべきものとは見なされなかったのである。

ただし、このマネの変革は絵画の「主題」の変革にその主軸を置いたものであり、「主題」と「手法」の関係を転覆して、画家の「手法」の表明をこそ「主題」としたモダニズムの変革には至っていない。彼の変革は、近代詩の始祖で先鋭的美術批評家でもあったシャルル・ボードレールの言に従い「モデルニテ modernité」すなわち「近代性（当時における現代性）」を「主題」とした点にその革新性があり、「手法」においては未だ写実主義の範疇にあった。

モデルニテは、近代的小説の確立者とされる文豪オノレ・ド・バルザックが一八二〇年代に新聞の文芸時評などで使い始めた用語で、一八四〇年代には美術批評にも用いられたが、この言葉に明確な輪郭を与えて画家の課題としたのは、マネの親しい友人で経済的にもマネの支援を受けていたボードレールであった。その名も『現代生活の英雄性』(1846) と題した批評において、旧弊な歴史画に固執する画家の怠惰を批判した彼は、『草上の昼食』が騒動を巻き起こした年の末に雑誌「フィガロ」に『現代生活の画家』(1863) と題した論考を寄せて、現代生活を詩的で偉大なものとして画面に描くことこ

そが画家の使命であると説いている。

マネの『草上の昼食』は、ルネサンス名画の詩神を模して詩的で偉大な「現代女性」の裸身を描くことにより、絵画芸術の「近代」としてのモデルニテを拓く作品だったのである。したがって、画面の裸体はその設定においては挑発的であっても、画面の主役を演じる「主題」である点においては、従来の絵画と変わりはない。「手法」においても、マネの筆致は十七世紀スペインのバロックを代表する巨匠ベラスケスの延長線上にあり、浮世絵の影響で色彩の対比を強調している点においては近代特有の画趣を魅せているものの、当時の人々の眼にはベラスケスの亜流と映っていたはずであり、その「手法」は、拙劣と軽蔑されることはあっても、彼が「主題」としたものほどには憤激の対象とならなかったはずである。

このマネの「主題」の変革を継いで「手法」を変革したのが、クロード・モネやオーギュスト・ルノワールら印象派の軽やかな筆致と明るい色彩であり、写実一辺倒で筆の跡が見えない仕上げを良しとしていたアカデミズム絵画の手法を一新、筆触も露わな生彩あふれる即興的な技法を確立した彼らを継いで、大胆な筆致や配色から、画面を一目見れば画家が誰であるかが判別できるような個性的作風を確立したのが、セザンヌ、ゴーギャン、ゴッホら後期印象派であった。セザンヌとゴッホの作品を見分けるのは門外漢にも容易であるのに対して、印象派のモネとルノワールの判別がさほど容易でないのはそのためである。

そうした後期印象派の個性的画風をさらに過激なかたちで革新したのが、マティスの爆発的な色彩であり、パブロ・ピカソの破壊的な造形だったわけである。これら激烈なまでの個性を主張する作品においては、画面の「主題」はむしろ画家の「手法」の独自性を主張することにあり、それまでの絵画の「主題」と「手法」の関係を完全に転覆してしまっているのである。

かくして、印象派の先駆にして近代絵画の開祖たるマネに始まる[C]「主題」の近代化としてのモデルニテは、モネら印象派による「手法」における自由度の拡大、セザンヌら後期印象派による「手法」の強烈な個性化を経て、現代絵画の開祖たるマティスやピカソらによる「手法」そのものを「主題」としたモダニズム絵画へと至ることになったのである。

モダニズム絵画の特色は、なんらかの「主題」を伝達する手段としてではなく「手法」自体を提示することを目的として制作される点にある。「美術の模範としての美術品」という自己言及性こそが近現代美術の特質であり、画面に「なにが描かれているか」がわからない抽象絵画という形式や、あえて「無題」と題した「主題」のない作品という、[D]難解にして逆説的な表現形式が美術に続出することになったのはそのためである。モダニズム美術はその自己言及性を探求するほどに、門外漢には理解の不能な最新の学術理論にも似た難解な作品を続々と生み出すことになったのである。ボードレールの提言を承けて次代の「美術の模範」として美術館に展示されることを目指して『草上の昼食』を制作したマネはその史上最初の画家であった。

そうしたモダニズム美術を一挙的に社会に認知させ、イギリス人の絵画の趣味を一変させる機となったのが、一九一〇年にフライがロンドンのグラフトン・ギャラリーで開いた「マネとポスト印象派」展だったのである。それは、モデルニテの祖としてのマネ、その継承者としての印象派からモダニズムの先駆としての後期印象派、そしてモダニズムの祖としてのマティスやピカソに至る作品をイギリスで初めて一同に紹介した絵画の現代の開幕宣言であり、同展を激賞して、芸術を「　X　」と断じた柳の『革命の画家』は、そうした「全球的時代状況との同時的感応」としてのモダニズム宣言だったのである。

（西岡文彦『柳宗悦の視線革命――もう一つの日本近代美術史と民芸の創造』による。）

問1 傍線部A「今日では名画の代名詞となった印象派の絵画の大半は、モダニズム以前の序列においては最下位の画種に属することになる」とあるが、これはなぜか。その理由を説明したものとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。 13

① 神話などを題材とした歴史画を最上と考える当時の絵画界では、印象派で描かれるような裸婦画は低俗なものとして避けられ、主題として批判の的になったから。

② 宗教画が最も格の高いものとされ、教会の権威が強い中世の西洋美術において、僧侶でもない世俗の人間が描いた絵画はヒエラルキーの下位に位置するとされたから。

③ 庶民の日常を中心に描く印象派の主題は、モダニズム確立以前のヨーロッパ絵画の価値の判断基準であったアカデミーによる序列に逆らうものだったから。

④ 明確な主題があるか否かに主眼が置かれた中世の絵画界では、高い技術が用いられた絵であっても伝えようとする主題をもたないものは序列が下とされたから。

⑤ 聖なる題材を伝統的な手法で描く歴史画を最上位とする当時の絵画界では、独自の手法で題材を描き出そうとする印象派の絵は受け入れられなかったから。

問2 傍線部B「挑発的な反権威性」とあるが、これはどういう行為に対して述べられたものか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。 14

① 当時のアカデミーが最も卑近な主題とした日常生活を、最も格上の題材に用いられていた様式で描くことで、日常生活という主題の価値を示そうとした行為。

② 歴史画のモチーフとされてきた裸女を描いた絵を風俗画の作品として出展することで、主題にこだわる当時の作品の序列を塗り替えようとした行為。

③ 風俗画という当時最下位にあった画種において、ルネサンス名画の神話の女神の趣向を借り、歴史画の様式を取り入れて人々の扇動を図った行為。

④ 世俗的な風物のいきいきとした魅力を描くことこそが芸術だとして、卑俗とされた題材に対して最上位の格付けや評価をアカデミーに認めさせようとした行為。

⑤ 風俗画の題材を歴史画の様式で描くという、既存の序列では格付け不能な新たなジャンルを編み出すことで、アカデミーの権威を失墜させようとした行為。

問3　傍線部C「『主題』の近代化としてのモデルニテ」とあるが、本文での説明の流れを整理して端的なタイトルをつけたものとして正しい内容になっているものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。 15

①
主題と手法の逆転
マネ
＝モデルニテの祖
↓
モネ
セザンヌ
＝印象派
↓
ルノワール
＝後期印象派
↓
マティス
ピカソ
＝個性的な画風の革新

②
主題の手法化
マネ
＝近代絵画の開祖
↓
モネ
＝印象派
↓
ゴーギャン
ゴッホ
＝モダニズムの祖
↓
マティス
ピカソ
＝モダニズムの先駆

③
主題と手法の逆転
マネ
モネ
＝モデルニテの祖
↓
モネ
ルノワール
＝軽やかな筆致
明るい色彩
↓
セザンヌ
＝個性的作風
↓
マティス
ピカソ
＝爆発的な色彩

④
主題から手法へ
マネ
＝近代絵画の開祖
↓
ゴッホ
＝個性的作風
↓
モネ
ルノワール
＝軽やかな筆致
↓
マティス
ピカソ
＝破壊的な造形

⑤
手法の主題化
マネ
＝モデルニテの祖
↓
モネ
ルノワール
＝軽やかな筆致
明るい色彩
↓
セザンヌ
ゴーギャン
＝大胆な筆致や
配色
↓
マティス
ピカソ
＝モダニズム
の祖

問4 傍線部D「難解にして逆説的な表現形式」とあるが、この形式に関する説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。 16

① 一見しただけでは鑑賞者が主題を理解できない表現をすることで、鑑賞者の想像力を呼び覚まし、より深く主題を読み取ることを可能にする表現形式。

② 聖なる世界を具現化するための手段であった絵画が、画家自らの内面的世界を描くことを追求する過程を経て、具現性を失うことになった表現形式。

③ 主題を偏重する従来の絵画の伝統に対する反発から、主題を廃して描こうとするなかで、かえって鑑賞者に画家の主題への固執を感じさせる表現形式。

④ 本来絵の主題であった描かれる対象に重きを置くのではなく、画家の独自性が表れる表現方法そのものを主題として発表しようとする表現形式。

⑤ 解釈の難しい表現を用いることで、描かれた対象にのみ注がれる視線を逸(そ)らし、美術品の在り方そのものについて考えさせようとする表現形式。

問5 本文中の空欄 X に入る表現として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。 17

① 主題の飽くなき探求

② 熾烈(しれつ)なる革新の歴史

③ 表現せられたる個性

④ 守りゆくべき伝統

⑤ 研ぎ澄まされたる技巧

問6　高校生五人が本文を読んで話し合った。本文の内容を踏まえた発言として**適当でないものを二つ**、次の①～⑤の中から選びなさい。ただし、解答の順序は問わない。 18 、 19

①　生徒A…モダニズム以前の西洋絵画の世界で、歴史画が格の高いものとされていたなんて初めて知ったよ。聖書の有名な場面など想像の世界を描いているから、写実的ではなく、重厚な色使いで崇高な雰囲気を表現した絵が主流だったんだね。

②　生徒B…以前、モネの有名な絵の一つを観(み)たときにとても感動したんだけれど、モダニズム以前の画壇の序列で考えるならば、モネの作品のような精彩豊かで素晴らしい風景画までも、格が低い作品だと見なされていたということだね。

③　生徒C…マネが『草上の昼食』を発表することで、表現者である画家の描き方自体に評価の主軸が移っていったんだね。一目でどの画家かがわかる作品も多い気がするから、近代以前は画家の手法が重視されなかったというのが意外だったな。

④　生徒D…アカデミーの定めたヒエラルキーを覆したマネが後世に与えた影響は大きいね。公的なものとして受け入れられていた神話の女神ではなく、生身の女性のヌードが描かれているだけでも、当時の絵画界では衝撃だっただろうな。

⑤　生徒E…ゴッホやピカソの絵のように個性豊かな作品は、次第にモダニズムへと向かっていく絵画の歴史の中で登場したんだね。モダニズムによって、画家の手法自体に着目するという世界に共通する現代の絵画の在り方が生まれたんだね。

3 次の文章を読んで、後の問い（**問1～6**）に答えなさい。

（小学校教師の「私」は、同僚のスミちゃんの、転任に伴う引っ越しの手伝いをしている。すると、スミちゃんが成人式の着物にまつわる思い出話を始めた。）

大学に進学してしばらく、スミちゃんはようやく手に入れた自由を楽しんだ。

お母さんがそろえた家具は、色合いがちぐはぐだったり、ファミリー向けのせいでやたら大きかったりしたけれど、「だって大学の間使うだけなんだし」と安いことだけは安かった。この時もお母さんは、A娘の一人暮らしを整える、という〝義務〟を忠実にこなしたのだ。

スミちゃんはそれらの家具を、自分のバイト代などでだんだんと取り換え、部屋を自分らしくしていった。とても楽しかった、という。

「あとは、生まれ故郷を離れたことで、母が生きている世界が実は狭かったんだろうなってこともわかっちゃったんだよね。親だから偉いと思わされてたし、支配されてきたけど、それって母の偏った常識や思い込みに過ぎなかったんだなって」

そんなふうにスミちゃんの生活が少し変わり始めた大学二年生の時、お母さんから一本の電話がかかってきた。

「それが、成人式の着物のことだったの」

aスミちゃんが少し、目を細めたように見えた。

二十歳の誕生日が近づくにつれ、スミちゃんの一人暮らしの部屋にも、貸衣装や着物メーカーから案内のハガキが多く届くようになっていた。スミちゃんは着物に詳しいわけではなかったので、着物にかかる金額を見てびっくりした。買うだけではなく、借りるだけでも何十万というお金がかかる。

当時のスミちゃんの同級生の中には、お母さんも本人も（ア）着道楽という家も多く、その子たちはみんな「母が昔から付き合いのある呉服屋さんが、実家に寸法測りに来るんだ」などと嬉しそうに話していた。

ただ、スミちゃんは、最初から成人式の着物に対しては特にこだわりがなかった。七五三以来着物を着たことはなかったし、日常的に誰かが周りで着ているという環境でもない。成人式の一度しか着ない振袖に何十万ものお金をかけるというのも、スミちゃんには抵抗があった。

親に用意してもらえるだけありがたい、という気持ちで、贅沢を言う気はなかったし、送られてくる貸衣装のカタログにもかわいいものが多い。うちならきっと、この一番低い価格帯の中から好みの色を選ばされるんだろうなぁと（イ）漠然と考えていた。着物なんて、どれも似たり寄ったりじゃないか――とも、思っていたという。

お母さんから電話があったのは、そんな頃だ。

「成人式の着物を選ぶから、帰ってきなさい」

他の子と同じように、そう言われた。しかし、その後にスミちゃんのお母さんは思ってもみなかった言葉を続けた。

「買ってあげるから」と言ったそうだ。

もともと、娘の成人式には振袖を買おうと決めていたのだと言う。

「どうせ借りたってお金はかかるんだし、着物だったら、いとこに貸してあげることだってできるでしょう？　あんたには、年下の女の子のいとこも何人かいるし、七五三の着物だって、うちのをよそ

に貸してあげたこともあるし」

驚きつつ、日程を合わせて帰省する。b昔からひいきにしている老舗――というわけではなかったけれど、県内で一番大きなデパートに入った呉服屋に、お母さんと着物を見立てに行った。

三十万円、という予算を伝え、好きな柄や色合いを、心得た様子の店員さんに何着か見せてもらう。

実際に着物を見てみると、ただカタログを眺めていた時とは大違いだった。どれも似たり寄ったりだなんてとんでもない。いい着物は光沢や生地の風合いからして違うし、同じ価格でも、好みかどうかは見てみなければわからない。生地を当ててみて、自分の顔回りが急に華やかになって「似合う」と感じることもあれば、写真で見ていた分には色や模様は好みだったけれど、自分には合わない、と思うこともあった。

その中で、スミちゃんが巡り合ったのが、あの、藤色の着物だった。

「自分にはきっと、はっきりした色は似合わないだろうから、ピンクとか水色とか、薄い色だろうな、と思ってたの。だけど、見た瞬間、ああ、こんな色もあるのかって、c比喩じゃなく、その着物に目が釘付けになったんだよね。一着だけ全然違って、売り場で光って見えた」

藤色のその着物は、美しい色合いだが、いざ袖を通してみると似合う人があまりいないのだ、と店員さんに言われた。もし似合ったらラッキーですよ、と。

そして、その着物は、あてた瞬間、これまで試着したものの中で一番、自分にしっくりきた。店員さんからもお母さんからも「いいね」と褒められた。

「数年前の在庫から出てきたお値打ち品で、本来の販売価格の半値以下にしてるって言われたこともあって、すっかりその気になっちゃったの」

スミちゃんは上機嫌でその着物に決め、次に帯や小物を見せてもらうことになった。

何枚かの帯を試す中で、「あと、予算は少しオーバーしますが、こちらの帯もとてもステキです」と店員さんが新しいものを持ってきた。いやそれは――とスミちゃんが断ろうとすると、背後にいたお母さんの方が「まあ！　素敵」と声を上げた。

「帯のこの模様なんて、着物の藤棚の模様とすごく合うじゃない。少しくらい予算が出ても大丈夫だから、これにしたら？」

B目を丸くするスミちゃんの横で、店員さんが「お母さまも着物がお好きなんですね」と声をかける。すると、お母さんが照れたように微笑んだ。

「ええ。実は大好きなんです」と。

「そんなに高いものじゃないんですけど、若い頃は自分でも何着か買ったり、着付けを習いに行ったりしました。ああ、こっちの半襟もすごくいいですね」

そんな話は一度も聞いたことがなかったスミちゃんはとても驚いたが、そのすぐ後で、胸があたたかくなるのを感じた。

自分も着物が好きだからこそ、娘の成人式にはレンタルじゃなくて買うと決めていたのかもしれない。何年も前から、自分の知らないところでそう決めてくれていた。自分の知らなかった母の一面を見られたような気がして、それからすごくうれしくなった。

三十七万円、というお金をかけて、スミちゃんは着物を買ってもらった。

会計の時、照れくさく思いながら、「ありがとう」とスミちゃんが言うと、お母さんが笑った。

「せっかくだから、お友達の結婚式があったりしたら、この着物、着ていきなさいね。成人式だけじゃもったいないし、ただ箪笥の肥やしにするのも惜しいから」

「わかった」

c そんなふうに言うのは、いかにも〝真面目教〟の母らしい考え方だと思ったが、その日ばかりは悪い気はしなかった。何より着物の世界がこんなに楽しいなんて知らなかった。自分でも着られるように着付けを習う人の気持ちが初めてわかったし、大学の近くで習えるところを探してみようとも思った。

母に言われるまでもない。すごく気に入ったから、これから何か機会があれば、できるだけこの振袖を着よう、と思った。

「その時にね、デパートのカードを作ったの」

スミちゃんが言う。

「デパートのポイントカード。うちの母は真面目な人だから、子どもがクレジットカードを持つことなんかには反対だったんだけど、お店の人から、だったらクレジット機能のないポイントだけが溜まるカードを作ったらどうですか、って薦められたの。高い買い物だし、今日の分だけでも二万円近く溜まるから、もったいないですよって」

そして、真面目な人には、この「もったいない」というセリフは　覿面（てきめん）に効くのだという。

「d 得をしたいっていうガツガツした気持ちはないけど、せっかくもらえる権利を放棄するってことは苦手なの。少なくともうちの母はそうだった」

スミちゃんのお母さんは、ポイントカードを作った。そして、驚いたことにそのカードを娘の名前にして、スミちゃんにそのままくれたのだという。

「自分はこんな遠くのデパートまで買い物に来ることはもうないだろうし、その中のポイントごと私にあげるから、今後何か買ったらって。それを聞いて、ああ、確かにうちは間違ってもデパートで服を買うなんてことはない家だったのに、今日は来てくれたんだって、改めて嬉しくなった」

ポイントカードのおかげで思わぬお小遣いが手に入ったことも嬉しく、自分用に着物が仕立てられるのを楽しみに、帰宅した。お盆の帰省に合わせて帰ってきていたので、数日後には大学のある町に戻るつもりだった。

しかし、話はそれだけでは終わらなかった。

「着物を買った、確か二日後だったかな？　大学に戻る準備をしていたら、母が急に声をかけてきたの」

――ねえ、お母さん、あの着物、クーリングオフして返品してしまおうと思うんだけど、そうなるとあのポイントカードのポイントも返却しなきゃいけなくなるから、カードを返してくれる？

目を見開くスミちゃんに、お母さんが　e 不安げに首を傾（かし）げて問いかける。眉間に皺（しわ）が寄る。

――あんた、まさかもう使ってしまったってことはないでしょうね。こんな短い期間に。

「なんで⁉」

私の口から、思わず声が出た。本当に意味がわからなくて尋ねると、スミちゃんが「あはは」と笑った。何かを諦めたような、達観した軽い笑い方だった。

「すごいでしょ？　着物を買ってからずっと、そのことばっかり考えてたみたいなんだよね」

――あの着物、いとこに貸してあげればいいと思っていたけど、よく考えたら他の子たちにあの色が似合うかわからないし、着ないっていうかもしれないし。

――調べたら、十万円以内でレンタルできる業者も最近じゃあるみたい。
――クーリングオフしたそのお金で、あなたが卒業後、地元に帰ってきた時に、車を買ってあげる。中古車を買う資金にしてあげるよ。

「それ、相談なしで、お母さんが勝手に決めたの？」
「うん。着物より車の方がいいでしょ、っていう結論を聞かされただけ。私に話したのも、最初の一言の通り、ポイントカードのことが気になって話したって感じだった」
唖然としてしまう。やっとのことで、スミちゃんに尋ねる。
「クーリングオフってさ。悪徳業者に騙されたとか、そういう場合のための制度なんじゃないの？高級布団を買わされるとか、健康グッズとか……。高齢者が強引に売りつけられたのを、家族が後でどうにかするとか、そういう時のためにあるんだと思ってた」
スミちゃんの着物の場合は本当にいいもののようだったし、向こうから強引に売りつけられたというものでもない。
すると、スミちゃんが首を振った。
「そう？　私の場合は、母のそのことがあったから、高額な買い物をした場合に思い直したり、後悔した時にも使っていい制度なんだって思ってたけど」
「いやいやいや、それはもうなんかちょっと……」
微笑んでそう言っているけれど、スミちゃんの使った「後悔」という言葉が切なかった。
（辻村深月「ママ・はは」『噛みあわない会話と、ある過去について』所収による。）

問1 傍線部（ア）～（ウ）の語句の本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。 20 、 21 、 22

（ア） 着道楽 20

① 着る物には高額なお金をかける人
② 洋服よりも和服を着るのを好む人
③ 日常的に着物を着慣れている人
④ 着物を生地から仕立ててもらう人
⑤ 着る物に細かいこだわりをもつ人

（イ） 漠然と 21

① 確信をもって
② ぼんやりと
③ 冷静に
④ 投げやりに
⑤ 感覚的に

（ウ） 覿面に効く 22

① 内面から作用する
② じわじわと働きかける
③ 強い圧力をもつ
④ 抗（あらが）えない拘束力となる
⑤ 効果がすぐに現れる

問2 傍線部A「娘の一人暮らしを整える、という〝義務〟を忠実にこなしたのだ」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。 23

① 一人暮らしをする娘の新生活が安定するように、苦しい生活の中でも何とか最低限のものを整えて、親としてできることをしようとしたということ。
② 無駄な出費を嫌がり、娘の一人暮らし用に新しく家財道具を揃（そろ）えることも気が進まなかったが、何とか自分をなだめて親としての責任を果たしたということ。
③ 大学生活という短い期間に利用するのに適した家具が揃うように、家具選びの経験がない娘の代わりに親として的確な判断をして準備を進めたということ。
④ 満足のいく家財道具を整えてやれないことを娘に悟られないように、親としての威厳を保とうと冷静を装って家具選びをしたということ。
⑤ 大学進学後は娘が地元に帰ることを前提に、娘の好みや生活のしやすさなどは考慮せず、親としての務めを果たすことを第一として家具を見繕ったということ。

問3　傍線部B「目を丸くするスミちゃん」とあるが、このときのスミちゃんの心情を説明したものとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。 24

① できるだけ安く済ませることを基準にしてきた母が、人が変わったように気前のよい発言を続けるため、母に何かあったのではないかと戸惑いを覚えている。

② 着物や帯などの小物のことになると金額を気にせず店員に同調する母の様子を見て、本当にそんなに金銭的余裕があるのだろうかと不安を募らせている。

③ 予定以上の買い物は母の性格上許されるはずもないので断ろうとしたが、当の母から帯の購入を勧められ、その意外さに信じられないという思いでいる。

④ 買い物の際はいつも必要最低限の出費にとどめたがる母が、娘の機嫌を取るかのように着物姿を褒め、帯まで買おうと勧めてくることに不信感を抱いている。

⑤ 普段は節約志向で好みなどがないように見えた母が、昔から着物好きで小物等の知識も豊かであると知り、母について何も知らなかったと感じて呆然としている。

問4　傍線部C「そんなふうに言うのは、いかにも〝真面目教〟の母らしい考え方だと思ったが、その日ばかりは悪い気はしなかった。」とあるが、スミちゃんがそう思った理由の説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。 25

① いつもなら、成人式に着るだけでは着物がもったいないので、沢山着て元を取るようにという言葉が倹約家の母らしいとうんざりするところだが、デパートで嬉しそうに美しい着物に目を輝かせる母の様子を見て、娘として微笑ましく感じていたから。

② いつもなら、いとこの成人式に貸し出すだけでなく、結婚式の参列にも使うようにという無駄を嫌う母らしい言い分に辟易するところだが、自身も着物の世界の楽しみに触れ、せっかく買うなら無駄にしたくないと、珍しく母の意見に納得したから。

③ いつもなら、機会があればたくさん着るようにと、買った後のことにまで口を出して管理しようとする母を煩わしく思うはずだが、着物という未知の世界の楽しみ方を通して、普段は相容れない母と心が通じ合ったように感じられて嬉しかったから。

④ いつもなら、箪笥の肥やしにするのも惜しいという言葉は無駄なことが嫌いな母らしくて呆れるところだが、自分の好きな着物を娘の成人式に買ってやりたいと考えてくれた母の思いや、着物の世界の楽しみを知れた喜びのほうが勝っていたから。

⑤ いつもなら、何か理由付けがないと高価なものを買うことができない母の考え方に嫌悪感を抱いてしまうが、そんな普段お金を使わない母が自分のために高価な着物を買ってくれたことに対して、感謝する気持ちのほうが強かったから。

問5　波線部a～eの内容や表現に関する説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。 26

① a「スミちゃんが少し、目を細めたように見えた。」は、有無を言わせない母の支配のもとで不自由な生活を強いられてきたスミちゃんが抱える苦しみに気づき、これ以上当時の話を続けさせてよいかを気にかける「私」の視点が投影された表現である。

② b「昔からひいきにしている老舗――というわけではなかったけれど」には、なじみの呉服屋さんで着物をつくってもらうという同級生に憧れていたため、仕立てられた着物を買いに行くことに物足りなさを感じるスミちゃんの心情が表れている。

③ c「比喩じゃなく、その着物に目が釘付けになった」は、着物に特にこだわりのなかったスミちゃんにとって、藤色の着物がいかに特別なものに見えたかということを強調することで、当時のスミちゃんが着物に運命的なものを感じたことを印象的に表現している。

④ d「得をしたいっていうガツガツした気持ちはないけど、せっかくもらえる権利を放棄するってことは苦手なの。」には、自分の母がお金に執着していると思われるのではないかという恥ずかしさから、体面を必死で取り繕おうとするスミちゃんの焦りが表れている。

⑤ e「不安げに首を傾げて問いかける。眉間に皺が寄る」には、自ら着物を買うことを提案したにもかかわらず結局クーリングオフすると決めたことに対して、娘がどう反応をするか恐れながらも、親として弱みを見せまいとする母の真面目な性格が表れている。

問6　本文全体の説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。 27

① 話を聞いて大げさに驚く「私」がいることで、かえって自身は母との苦い思い出を冷静に振り返ることができて落ち着いた様子を見せるスミちゃんと、母の行動に対するスミちゃんの受け止め方を聞いて、納得がいかず不満を抱く「私」の姿が描かれている。

② 当時の自分の気持ちや母の性格について客観的にとらえているように見えるものの、自分の考えが正しいと信じて娘の気持ちを気にとめない母に対して、どこか諦念を感じさせるスミちゃんと、そのスミちゃんの様子にもの悲しさを覚える「私」の姿が描かれている。

③ 自分の考えや都合で行動する母に合わせることに慣れてしまい、生まれ故郷を離れ一人で暮らせるようになった今でも、そんな母を擁護し続けているスミちゃんと、無自覚に支配を受け続けているスミちゃんの様子に心を痛める「私」の姿が描かれている。

④ 成人式の着物を選ぶ際に母がとった自分の理解を超えた行動をきっかけに、母に対する自身の反発心に気づき、故郷を離れた今は母の支配から自立できたと喜びをかみしめるスミちゃんと、前向きなスミちゃんの考え方に驚きを感じる「私」の姿が描かれている。

⑤ 母が着物を買おうとしてくれたことへの喜びと、その喜びを母自身の手で壊されてしまったことへの悲しみから、「真面目」という言葉でごまかしつつも、母への不信感を拭い去れずに苦悩するスミちゃんと、そんな彼女に同情を寄せる「私」の姿が描かれている。